

議会全員協議会

5月22日に議会全員協議会が開催され、執行部から「ごみ処理体制の今後の方向性（検討状況）」について」の報告がありました。



1| 背景と課題



施設の老朽化
段町の「ごみ焼却処理施設」は運用開始から27年経過。老朽化が進んでおり、更新の検討が必要な状況です。



人口減少とごみ排出量の減少
人口減少やごみ減量化の推進に伴い、ごみの排出量は減少する一方で処理費用は増加。施設の老朽化に伴う維持管理費も増加しており、将来負担が確実に増加していきます。



整備に長期間を要する
施設整備には多額の費用と長い期間が必要で、計画的な対応が求められます。



最終処分場の制約
松原町松岡の「一般廃棄物最終処分場」は埋立残余年数は約10年と想定され、今後の新たな整備にも長期間を要します。

令和3年度策定の「岡山県ごみ処理広域化・ごみ処理施設集約化計画」を基本に、令和7年度からは高梁市・新見市・吉備中央町の枠組みによるごみ処理体制を検討。

2| 検討している処理方式

1 広域処理
近隣自治体と連携し、共同で施設を整備・運営



2 単独処理
市単独で施設を整備・運営



3 外部処理委託
民間事業者などへ処理を委託



4 官民連携
民間の資金やノウハウを活用して施設を整備・運営



5 現状施設の延命化
既存施設を長寿化し更新時期を先送り



処理方式	主なメリット	主なデメリット
①広域処理	事業継続性が高い スケールメリットが期待できる	建設費・維持管理費の負担が大きい 用地選定・住民合意形成が必要
②単独処理	各自治体で独立した運営が可能 現行体制に近い方式	財政負担が最も大きい スケールメリットが得られない
③外部処理委託	建設費を大幅に抑制可能 ごみ量減少への柔軟な対応が可能	委託先事業者の確保が必要 価格変動や事業者リスクへの対応
④官民連携	ライフサイクルコストが最も低い 発電や熱利用等エネルギー活用が可能	全国的な実施事例が少ない 制度調整や事業者確保が必要
⑤現状施設の延命化	更新まで期間を確保できる	維持管理費増大、突発的な故障リスク

請願ってなに？

請願について

請願は、市民の皆様が市政に対して意見や要望を直接議会に提出できる大切な制度です。
市議会は、この内容を審査した上で、採択・不採択を決定します。

請願の特徴

- 誰でも提出ができます。（紹介議員が必要です。）
- 市政に関する意見や要望を議会に届けられます。
- 議会で審査・議決され、結果が請願者に報告されます。
- 採択された場合、関係機関へ意見書等を提出します。

令和8年6月定例会に上程された 2 件の請願

請願第3号

教職員定数改善と義務教育費国庫負担率引き上げをはかるための、2027年度政府予算に係る意見書採択の請願について

紹介議員 宮田 好夫

賛成意見（要旨）

教職員を増員することは、学校現場で働く職員からも求められてる。全国同じように少人数学級が実現され、併せて教職員の処遇改善が図られるよう、国に要望していくべきだ。

反対意見（要旨）

請願は、主に本市の現状に照らして判断すべきである。高梁市では、既に35人学級を実施していることなどを考えると、現時点で一律に国へ要望する段階にはない考える。

請願第4号

高梁市人と猫の調和ある共生に関する条例制定の請願書（意見陳述あり）

紹介議員 森 和之 藤岡 善行
平松 久幸 金尾 恭士

継続審査に対して賛成意見（要旨）

岡山県で既に人と動物の共生に関する条例が制定されている。その中でこの請願の趣旨を、より良い形で実現していくためにも、前向きに内容を精査し、慎重に進める必要がある。

継続審査に対して反対意見（要旨）

岡山県に条例はあるが、猫に関する内容は十分ではない。高梁市が条例を制定し、飼育マナーを周知するとともに、相談窓口を設置することが、猫と住民が共生できるまちづくりにつながる。

意見陳述者へのインタビュー

請願第4号について、提出者である「野良猫を作らない会」の仲村美名子さんにお話を伺いました。

猫の保護活動を始めたきっかけを教えてください。

「13年前に職場に猫が迷いこんだのがきっかけで、野良猫に関わるようになりました。そのうち猫が多くなって一人では大変になり、猫好きの方々に声を掛けて一緒に活動するようになりました。」

これまでどのような活動を行ってこられましたか

「里親が780匹くらいで去勢・避妊手術が282匹です。メス猫を避妊すればオス猫が集まらないので喜ばれています。」

猫問題の相談も多くあるのでしょうか。

「年100件近くあります。中には私たちではどうにもならないこともあり、その時は申し訳ないという気持ちになります。」

野良猫を増やさないためにはどうしたらいいですか。

「猫は自分で餌を取って食べていますので、餌をやらなければ減るわけではありません。野良猫にさせないために、飼い主が去勢・避妊手術を行い、完全室内飼育と生涯飼育を必ず行うことです。」

貴重なお話を聞かせていただき、ありがとうございました。

